



# 札幌市

## 日米混血の芸術家イサム・ノグチの心が宿る

### 「モエレ沼公園」



園長の石村寛人さん

#### 北海道の原風景が凝縮された 「彫刻」のような公園

風景を壊さず、それとなく存在を主張するガラスのピラミッドは、北海道の原野に見事に溶け込んでいた。

札幌市の中心から北へ車で20分ほどの距離に、日米混血の芸術家イサム・ノグチがマスタープランを作成したモエレ沼公園は位置する。ガラスのピラミッドはこの公園の象徴的な建物だ。

若き頃、ユネスコ本部（パリ）の庭園をデザインしたことで知られる世界的な芸術家がなぜこの地に魅せられたか。その理由は、北海道出身のノンフィクション作家、ドウス昌代が著した『イサム・ノグチ』に詳しい。彼は札幌をはじめ訪れた時、北海道の風景にアメリカを重ねて、日本のフロン

ティアを感じた。そして、市が用意した数カ所の候補地の中から選んだのが、付け足しのようにあったゴミ処分場・モエレ沼だったという。おそらくこの地は「全体をひとつの彫刻とみなした、宇宙の庭園になるような公園をつくりたい」という彼の夢を実現できる格好の土地だったのだろう。

ガラスのピラミッドの屋上から周囲を見渡すと、牧草地や林が続く。まさに北海道の原風景が凝縮された立地である。1988年5月から11月にかけて、この公園のマスタープランを作成した後、彼はその年の12月30日、ニューヨークで永眠した。

#### 作者の思い描いた「人間性」は ディテールに表れている

モエレ沼公園は、札幌市の市街地を公園とができる。例えば建物の最上階から屋上へつながるスロープもそのひとつだ。

#### 地球の肌を感じ取ることでできる 新しい観光資源としての可能性

ガラスのピラミッドのアトリウムで小一時間、どんな人たちが利用しているのだろうと観察していると、ウォーキングを趣味とする高齢者の一団や、視察に訪れたところかの自治体の議員団、そして恋人たちなど、実にさまざまな人々がこの空間に一時佇んでいた。

1日の最大利用者数は約7000人。休日には子ども連れが多い。「もともとこの公園は、東区の総合公園としての位置づけだが、周辺住民に加えて、市内はもとより、遠方から訪れる人もかなりいる」と、園長の石村寛人さんは語る。

札幌市の観光パンフレットにもすでにこの公園は紹介されており、すべての工事を終える1年後には、地球の肌を感じ取れる観光スポットとして、台湾や香港など海外からも注目を集めるに違いない。

ガラスのピラミッド内にあるレストラン「アンファン・キ・レーブ」はフランス語で「夢見る子ども」の意味だ。地球に夢を刻もうとしたイサム・ノグチを意識して付けられた名前なのだろう。



総合案内所を兼ねる「ガラスのピラミッド」へのアプローチは平坦な遊歩道



すべての遊具をイサム・ノグチがデザインした「サクラの森」



「ガラスのピラミッド」の屋上に設けられたスロープ



古代の遺跡を思わせる高さ30mの「プレイマウンテン」



一辺29mのステンレス柱の組み合わせによる三角錐（高さ13m）「テトラマウンテン」



光のシャワーが降り注ぐ「ガラスのピラミッド」内のアトリウム



レンタサイクル場では車いすの貸し出しも行っている

「私の創作に対する情熱の根底にあるものは（中略）スペースに、そして彫刻に人間性を与えるという意味でもありません。単に審美的な目的ではなく、エゴのためでもありません。あるいは考古学や砂漠のイメージでもありません。それは現実に役立つものであり、人々の生活に大きな役割をもつためのものなのです」（「京都賞」受賞記念講演より）

イサム・ノグチが思い描いた「人間性」は、園内のさまざまなディテールに垣間見るこ



# 帯広市

## 「心のUD」に力点を置いた 啓西小学校の「UD教室」



ベラルーシの子どもたちとの交流



上: 校内LANが構築されているコンピュータ室 下: 採光と木の温もりに配慮した図書室



各階に設置された高さの異なる水飲み台



車いす対応トイレの内部



すべての階段には2段手すりを設置

### 市の職員が 小中学校で出前授業

郊外には大農園が続き、市内には針葉樹の並木道や芝生の公園…。帯広市は恵まれた自然の中で、都市部と農村部が絶妙なバランスで調和する十勝地方の中核都市である。人口は約17万5000人。

砂川敏文市長の肝いりで、早くからUDに力を注いでいる帯広市では、UDプロジエクトチームの職員が小中学校に出向いて、「UD教室」を行っている。

ある日のUD教室風景。「UDという言葉を知ったことがある人は、手をあげてください」。おそろおそろの周りを見る子どもたちに、UDグッズやUDに配慮した公共施設などの事例写真を活用しながら、UDという言葉を知ってもらうことから

### UDで全面改築された校舎から 「木の温もり」が感じられる

築後35年を経て、啓西小学校は校舎の老朽化と耐震性の改善を目的として全面改築された。3階建の建物は普通教室(18室)、特別教室(理科室、生活科室、図工室)、コンピュータ室など、管理諸室(職員室、校長室、印刷室、配膳室など)で構成されている。

エントランスのスロープ、階段の2段手すり、高さの異なる水飲み台など、他のUDをコンセプトとして造られた施設にみられるディテールはもちろん、教育施設であることを考慮し、次のことも念頭に置きながら設計された。

●学校開放事業(校舎1階北側の音楽・視聴覚室、家庭科室などを開放ゾーンとして一般開放)

●情報化に対応する施設整備(インターネットを利用した授業を展開できるように校内LANを構築)

●ゆとりある学習環境(いろいろな学習に対応するために、普通教室前に広々としたオープンスペースを確保)

●子どもから大人まで誰もが使いやすい施設整備(段差の解消、エレベータの設置、トイレの設置など、UDを導入)

●学校敷地の緑地化(既存の樹木を極力移植し、可能な限り芝の植栽を行う)



展示スペースに飾られた子どもたちが染めたTシャツ

授業は始まる。さらに、手すりが1段しかない階段の写真を示しながら、「車いすの人は使えるでしょうか?」「小さな子どもにも、手すりが届くでしょうか?」「お年寄りが楽に上の階へ行くでしょうか?」と矢継ぎ早の質問。子どもたちはいつも見慣れた階段の不便さを通して、人がそれぞれ違いを持っていることに気づくのだ。

「人のもつ違いは認め合わなければならぬ」「誰もが暮らしやすいためには、ほんの少しの思いやりが大切」と説明すると、子どもたちは「うーん、そうなのかな」と目を輝かせ、UDへの興味が広がってゆく。

帯広市では高齢化率が比較的高い柏台地区をモデル地区として、公園や道路、住宅などのUD化に取り組んでおり、同地区にある啓西小学校もUDのコンセプトで建て替えられた。

ふんだんに道産材が使われている校舎からは、「木の温もり」が感じられる。

### 「社会科」や「総合的な学習の時間」の 授業枠を使いUD教室が行われている

同校は建物がUDであるばかりでなく、既存の授業枠のなかでUDの授業を行うなどソフト面にも力を注いでいる。昨年度の場合、六年生の総合的な学習の時間で15時間、五年生の社会科で8時間、UDの授業が実施された。

「地域の人たちとの交流が生まれるなど、面白い授業ができる。一人ひとりが、まちづくりの主体なのだ」という市民意識も出てくる」と、社会科の担当教諭は力を込める。

学校がある柏台地区のさまざまな場所にフィールドワークに出かけることもたびたびだ。公園へ出かけた際には、「砂利道を舗装したらいい」「車いす対応のトイレが必要」などに加えて、「車いすごと乗れるプランコがあったらいい」という突飛な意見も飛び出した。

「こんな時代ですから、UDの授業をきつかけに、差別やいじめがなくなっしてほしい。子どもたちが、障害のある人に理解を示すようになったのは確かです」

担当教諭の言うように、UDの授業を通じて、「心のUD」が少しずつ子どもたちに根付いているのかもしれない。



# 旭川市

## 「ノーマライゼーションの理念をかたちにした 障害者福祉センター「おびつた」



障害者福祉センター「おびつた」前の歩道には歴史性を考慮して、レンガが敷き詰められた

### 都市の中心性を蘇らせる 「北彩都あさひかわ」プロジェクト

旭川市では現在、国や道と連携して、開市以来の大事業となる「北彩都あさひかわ」プロジェクトを推進中だ。同プロジェクトは鉄道高架(事業主体:道)や土地区画整理(事業主体:市)などの都市基盤施設整備事業を一体的に推進することにより、国鉄跡地等、都心部の空闲地を新たな拠点として活用し、都心部の中心性の回復を図ることを目的としている。このプロジェクトにより、駅も、道も、広場も、街並みのすべてが一新され、新しい旭川市が誕生する。

基本構想の策定は1992年で、すべてが完成するのは2014年頃の予定だ。このプロジェクトの特筆すべき点は、建築物はもとより、土地利用についても、年齢や

障害のあるなしにかかわらず、広範な市民の意見を計画に反映しようとしていることである。

子どもたちの意見も重視する。1994年には、「どんなまちに住みたいか、どんなまちにしたいか」をテーマとして、中学生を対象にフォーラムを開催。1996年には小学生対象の「子どもまちづくりフォーラム」を実施した。障害のある人のまちづくりワークショップへの参加も盛んだ。最初にソフトウェアをどうするかで、ソフトウェアを達成する手段としてデザインが存在する。この当たり前の考えを基調としたデザインが、ようやく北海道の中核都市で実現されようとしている。

### 歩道を試作して 歩きやすさをモニタリング

シビックコア地区に残るレンガの建物のもと、行っているが、「ふれあい号利用者の中で、週3回水浴訓練室を活用している人がいる」と事務局の濱田勝夫さんがいうように、障害のある人には好評のようだ。「障害のある人となない人の割合は半々です。利用に当たっての苦情は、どちらからもありません」(障害福祉課・加納康行さん)

障害のあるなしにかかわらず多様な人々が利用することそれ自体が、ノーマライゼーションの理念が生かされている施設だといえるのではないだろうか。



屋外インターホンポール



車いす対応調理台



1階入り口のエレベータ



水浴訓練室の車いす対応スロープ

### 歩道試験舗装モニタリング

	白色でよい	黄色のほうがよい	その他の色でもよい	無回答
障害のある人	26.8%	57.1%	5.4%	10.7%
障害のない人他	54.0%	12.3%	25.1%	8.6%
全体	47.0%	23.7%	20.1%	9.2%

	視覚障害者の歩きやすさを重視してつくったほうがよい	市民みんなが歩きやすくて美しい歩道をつくったほうがよい	その他	無回答他
障害のある人	46.4%	42.9%	3.6%	7.1%
障害のない人他	41.1%	47.9%	6.7%	4.3%
全体	42.5%	46.6%	5.9%	5.0%

出典:「北彩都あさひかわ」

### 障害のある人となない人の 利用割合は半々

モニタリングが行われた宮前地区に今年、障害者福祉センター「おびつた」がオープンした。障害のあるなしにかかわらず利用できる施設で、水浴訓練室や体育館、会議室、和室研修室、調理室、陶芸室等から構成されている。

地元のボランティア団体「障害者問題を考える会」では、在宅障害者の移動を支援するカーボランテア「ふれあい号」を運



デンマーク鉄道とJR北海道との協働ワークでデザインされた函館駅



プラットフォームには2段手すりを設置された



タッチパネル式の券売機



わかりやすい階段のステップ



函館駅のコンコース。2階には情報センターや展示コーナーが設けられている



函館駅前と湯ノ川温泉を結ぶ一部低床式路面電車

●市町村レポート  
Hakodate City



# 函館市

## 駅舎と駅前広場が一新された 「函館駅とその周辺」

### JR北海道とデンマーク鉄道の協働によるデザイン検討

北海道の陸の玄関、函館駅とその周辺が一新される。駅舎はJR北海道、駅前広場は函館市が事業主体だ。駅舎は2003年6月に開業した。

新駅は駅前広場の一部が古い駅舎の敷地にかかるために約40m海側に移転し、高齢者や障害のある人を含めたすべての人にやさしい駅舎として生まれ変わった。列車を降り、駅前広場へ出るまでに段差はなく、ホームから改札口までのアプローチには2段手すり。飲料や煙草の自動販売機は手や指の不自由な人でも使いやすいように、硬貨投入口が受け皿型になっている。

新駅のデザイン検討はJR北海道とD

SB(デンマーク鉄道株式会社)との協働で、1998年に開始された。千歳空港駅、小樽築港駅に続く、両社の3番目の共同ワークになる。駅舎中央には高さ24mの円筒形のガラスとチタンパネルでできたロンド(イタリア語で円形の空間の意味)を配置しているのが特徴だ。外光がふんだんに射し込むロンドは、明るく快適な環境をつくり出している。

### 樹木やパブリックアートを配置し憩いの空間を演出

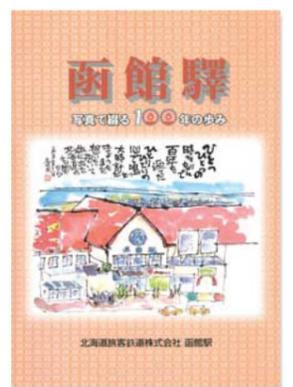
駅前広場は函館市を事業主体として「函館駅前土地区画整理事業」(9.8ha)により、2004年度の完成を目指して整備中だ。これまでの広場に比べて、駅舎が移転したことにより、敷地面積が広がった。そこには四季を感じさせる樹木やパブリックアートが配置され、憩いの空間が創出される。歩行者は駅舎からの広場を通って、駅前商店街へ直進できるようになる。

バス・路面電車はこの広場を起点とする。1両だけが、一部低床式の路面電車が函館駅と湯ノ川温泉を結んでいるし、2005年には全低床式車両の導入が計画されている。札幌市にも1路線だけ路面電車が残っているが、市民の足として広く親しまれているのは、北海道では函館市だけだ。昨年、路面電車が走る都市の行政マンや市民団体、電車マニアの人々が一堂に会する「路面電車サミット」が函館市で開催された。

### 青森市と「ツインシティ」の盟約を結び海峽交流を活発化

青函トンネルの開通を契機として、函館市と青森市は「ツインシティ(双子)」の盟約を結び、文化・スポーツ、経済など、さまざまな領域で交流を活発化させている。高齢者、障害のある人の福祉バスの相互利用も実施されており、青森市の人でもバスを明示すれば、函館のバスに無料で乗車できる。他県の都市とこのような試みを行っているのは、全国的に見てもめずらしい。

全国では福岡県北九州市と山口県下関市が、海峡都市構想を掲げて、同様の動きを見せはじめている。



函館駅の歴史を表した冊子